

# 聴覚障害学生のための語学関連 Tips 英語の技能試験における特別措置

(平成 30 年 2 月改訂版)

## はじめに

最近、大学在学中に就職に役立つ資格の取得を希望する学生が増えています。その一環として、日本の教育現場で支持を得てきた「実用英語技能検定（英検）」や、会社の採用や内定条件の一部として利用する企業が増えている「TOEIC®」を受験し、より高い資格や得点の獲得を目指す学生が多くなってきました。平成 23 年度より筑波技術大学「障害者高等教育拠点」事業の一環として実施している「語学科目に関わるアカデミック・アドバイス」の取組にも、他大学の教職員から「英検の資格取得を目指したいが、発音も指導していくべきか」、「TOEIC®のリスニングの対処方法について」など、技能試験に関する質問が数多く寄せられました。それらの質問から、英語の技能試験の重要性が増しているという大学全体としての傾向が、聴覚障害学生にも同様に見受けられます。また、海外留学を希望する聴覚障害学生の増加に伴い、「TOEFL®」の重要性も増しています。本稿では、従来から実施されている英語の技能試験のうち「英検」「TOEIC®」「TOEFL®」における聴覚障害に関する特別措置について、本取組で受けた相談事例の紹介とともに、受験対策の参考となるようまとめました。

## 実用英語技能検定（英検）

「英検」は、年間受験者数 340 万人で幅広い層を対象とした国内最大規模の英語の技能試験で、筆記とリスニングの一次試験と面接の二次試験で構成されている。試験の 4 技能化に伴い現在では 1 級から 3 級までライティングが含まれ問題や評価方法も変更された。また 4 級、5 級では、試験の可否には関係しないが新たにリスニング試験が受けられるようになった。その特別措置として音声と字幕の同時進行、字幕読みとりのための時間延長、および質問の回答方法として、発話、テキスト入力、代理応答、パッセージ音読の免除、回答時間延長が配慮されている。

1 級から 3 級のリスニングでは免除という措置は取らず、字幕テロップや強音放送、座席位置の配慮で対応されています。一方、話す技能に関して、「受験対策として発音指導を行うべきか」という相談を担当教員から受けた事例がありますが、発音は二次試験での音読と関わりがあります。試験の実施団体である公益財団法人 日本英語検定協会は二次試験における特別措置として、障害程度等級 6 級以上の場合に、面接委員からの指示や質問をフラッシュカード（FC）で表示する「筆談」もしくは「FC+口話」の措置を設定しています<sup>1)</sup>。いずれの場合も、音読は口頭で行います。質疑応答は口頭を希望する聴覚障害学生の割合が多いようですが、音読および質疑応答を口頭で行う場合には、ある程度の発音指導が必要になってきます。これに関して、英語の教育実習への参加条件として英検 2 級の取得を課している大学で、発音の個人指導（強めに発音するトレーニング）が功を奏し合格した事例があります。英語の発音が判別可能な学生の場合は、個人指導で効果が上がるようです。日本語の発音が比較的明瞭な学生に個人指導を行い、飛躍的に英語の発音が良くなったという事例もあります。また、指導の際に英文にカナを振ることで、即時に学生の声の音量が上がったという事例が多く挙がっています。このような方法で、発音への不安を払拭あるいは和らげることができれば、聴覚障害学生においても積極的な受験に繋がることでしょう。

アメリカやオーストラリアなど、留学先の大学によっては、英検のスコアレポートを英語能力証明書として認可する場合があります<sup>2)</sup>。英検の Web サイトや希望する大学の応募要項を確認すると良いでしょう。アメリカの大学留学に求められる英検の資格の目安は、4 年制大学で準 1 級、2 年制大学や ESL で 2 級 A（2 級の一次試験を 75% 程度以上の正答率で合格）か 2 級となっています<sup>3)</sup>。なお、留学資格としての英検の有効期限は、合格証明書発効日から 2 年間です。

※太字は語句について解説するもの。

【参考】筑波技術大学「障害者高等教育拠点」事業 Web サイト：  
<http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/kyoten/html/>

※各技能試験（実用英語技能検定、TOEIC®、TOEFL®）における特別措置の詳細については、章末の表を参照。

【参考】「英検」Web サイト：  
<http://www.eiken.or.jp/eiken/>

**字幕テロップ**：音声文字化したもの  
を DVD で放映する

1) 障がい者特別措置について：

2) 海外の英検認定校：  
オーストラリア：  
<https://www.eiken.or.jp/eiken/abroad/australia/03.html>

アメリカ：  
<https://uketuke.eiken.or.jp/step/jsp/loginservice/L1F005.jsp>

その他の地域：  
<https://www.eiken.or.jp/eiken/abroad/other/>

**ESL**：“English as a second language”の略。英語が母国語でない学生のために設けられた英語プログラム。ESL を設置している大学と設置していない大学がある。

3) 有資格者確認依頼 & スコアレポート発行：  
[https://www.eiken.or.jp/eiken/abroad/score\\_report/](https://www.eiken.or.jp/eiken/abroad/score_report/)

## TOEIC®

「TOEIC®」は Reading (75 分 100 問)、Listening (45 分 100 問) の 2 つのセクションからなるビジネス英語に照準を合わせた試験で、英語のコミュニケーション能力を 10 点から 990 点までのスコアで評価する世界共通のテストです。配点は Reading、Listening の比率が半々ですが、以前はリスニングを受けない受験生には最低スコアである 5 点を加算する形でトータルスコアが提示されたため、トータルスコアだけを見て不当な評価がなされることがありました。その後、リスニングの免除措置が実施され、申請した場合はリスニングのスコアが「N/A」で提示されるようになったので、以前のような不利な面は解決されました。しかし、その後も社会における免除措置の認知度が低く、免除措置があることを知らない聴覚障害者も多かったことから、リスニング免除を選択しても就職などに有利になるまでには至りませんでした。現在では、TOEIC®を運営している一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会が、Web サイト上でリスニングの免除措置および公定認定証のスコア表示方法に関する情報を公開しています<sup>4)</sup>。また、公式認定証に同封している書面 (テスト結果についての説明) にも、同様の説明が記載されており、これらを活用することで、大学や会社にも説明し易くなりました。Web サイトでは「プライオリティサポート」として免除以外の特別措置の方法も公開されており、これに明記されている以外の措置を希望する場合には、プライオリティサポート係が個別に対応しています。

しかしながら、リスニングの特別措置にはまだ問題が残されています。一例として、就職活動をしている大学生から受けた相談を紹介します。「中軽度の難聴で身体障害者手帳は取得できない障害レベルだが、リスニングは聞き取れない。手帳がないと免除申請ができないのではないか？就職活動で会社から TOEIC®のスコア提示を求められているが、不利にならないだろうか。」という内容です。TOEIC®では、リスニング免除申請のための障害証明書として、「身体障害者手帳」のほかに「医師の診断書」を挙げています。「身体障害者手帳」は障害が最も軽度の 6 級で聴力レベル 70dB が条件とされ、70dB より軽い聴覚障害者は手帳を持つことができませんが、「医師の診断書」では、語音聴力検査で語音が聞きにくいという診断も障害として証明されます。障害者手帳の取得条件より軽度 (40~50dB 程度) であっても、「音は聞こえるが明瞭な語音としては聴こえない」ことが多々あり、英語であればそれは顕著に現れます。中軽度の難聴者にとって、語音聴力検査の結果を提示してリスニング免除措置を受けることも、選択肢の 1 つと言えるでしょう。

就職の採用基準として要求される TOEIC®スコアは会社によって様々ですが、「上場企業における英語活用実態調査-2013 年」報告書<sup>5)</sup>によると、新入社員に期待するトータルスコアの平均は 565 点となっています。TOEIC®の公開テストは年に 10 回実施されているので、スコアアップを目指して積極的に挑戦すると良いでしょう。

## TOEFL®テスト

「TOEFL®テスト」は世界で最も広く受け入れられている英語能力試験で、英国、米国、オーストラリア、カナダなど 130 ヶ国 9,000 以上の大学や機関で英語の技能認定試験として認められています。大学レベルの英語の使用、理解能力や学術的な課題を遂行する能力が評価されます。日本で受験する際には、インターネット上で受験する TOEFL iBT® (インターネット版トフルテスト) が一般的です。選択、文挿入、要約などの問題で構成され、Reading (60~80 分)、Listening (60~90 分)、Speaking (20 分)、Writing (50 分) の計 4~4 時間半かかります。評価は各セクション 30 点満点、トータルで 120 点満点となっています。受験から約 10 日後には、オンラインで結果が確認できます。

聴覚障害者向けの特別措置<sup>6)</sup>としては、主に「音声部分の通訳者配置や書記化」「リスニングおよびスピーキングの免除」があります。聴覚障害者の多くは、リスニングおよびスピーキングの免除を選択するようです。特別措置を受けるためには、“Testing Accommodations Request Form”、および“Certification of Eligibility : Accommodations History” (場合により医師の診断書) の提出が必要<sup>7)</sup>です。申し込み到着から配慮決定までに 6 週間、追加書類が必要になった場合は更に 6 週間が必要となるので、早めに準備を始めましょう。なお、提出の必要のない書類を送ると、配慮決定を遅らせてしまう可能性があります。障害者用受験要綱等で各自の必要書類を確認するよう、十分注意してください。

一般的に、アメリカの大学における留学生の受け入れ条件として、TOEFL iBT®スコア 61 点以

【参考】「TOEIC®」Web サイト：  
<http://www.toeic.or.jp/>

**N/A**：“Not Applicable”の略で、「該当せず」を意味する。  
※ただし、インターネット表示上は、受験した試験日のリスニングの最低スコアが表示される。

4) プライオリティサポートについて：  
[http://www.toeic.or.jp/priority\\_support.html](http://www.toeic.or.jp/priority_support.html)  
[http://www.toeic.or.jp/library/new/priority\\_support/pdf/order\\_seet.pdf](http://www.toeic.or.jp/library/new/priority_support/pdf/order_seet.pdf)

### 語音聴力検査：

被験者にとってよく聞こえる大きさの音が日本語の語音として聞こえるかどうかの明瞭度を調べる検査

5) 「上場企業における英語活用実態調査 2013」報告書：

[http://www.toeic.or.jp/toeic/about/data/katsuyo\\_2013.html](http://www.toeic.or.jp/toeic/about/data/katsuyo_2013.html)

【参考】「TOEFL®」日本事務局 Web サイト：  
<http://www.cieej.or.jp/toefl/>

6) TOEFL®特別措置について：

- ① <http://www.ets.org/toefl/ibt/registry/disabilities/>
- ② [https://www.ets.org/s/disabilities/pdf/bulletin\\_supplement\\_test\\_takers\\_with\\_disabilities\\_health\\_needs.pdf](https://www.ets.org/s/disabilities/pdf/bulletin_supplement_test_takers_with_disabilities_health_needs.pdf) (障害者用の受験要項)

### 通訳者配置：

TOEFL®では、手話通訳者または口話通訳者 (わかりやすい口の形で、音声情報を伝える通訳方法) の配置を希望できる。

7) これらの特別措置の申請用紙は、別冊の障害者用受験要項 (Bulletin Supplement for Test Takers with Disabilities) に含まれている。第三者による証明書“Certification of Eligibility : Accommodations History”については、在籍する大学が記入したものを提出することも可能である。(対応の有無や担当部署については、各大学に要確認)

上が目安とされています。各大学により要求されるスコア、免除措置を受けた場合のスコアの取り扱いが異なりますので、出願要項で調べておく必要があります。

なお、テストスコアは受験から2年間有効となります。試験対策として、何回か受験して有効期間内の最高スコアを大学に提出するなど、高得点を狙うこともできます。TOEFL®テストはスコア基準表に沿って採点される<sup>8)</sup>ので学習計画が立てやすく、障害のある受験者向けTOEFL iBT® Test Sample Questions<sup>9)</sup>で練習するなど、これらのコンテンツを活用すると良いでしょう。

8) TOEFL iBT®テストスコアについて：  
<https://www.ets.org/jp/toefl/ibt/scores/understand>

9) [https://www.ets.org/toefl/ibt/register/disabilities/test\\_preparation](https://www.ets.org/toefl/ibt/register/disabilities/test_preparation)

## 参考

### 英語の技能試験における聴覚障害に対応した特別措置のまとめ (2016年1月現在)

	実用英語技能検定 (英検)	TOEIC®	TOEFL® iBT
試験全般	補聴器等の使用	一般的な補聴器の使用	補聴器、人工内耳の使用
リスニング	[ 選択肢 ] 【障害程度等級6級以上】 ・字幕テロップ (DVD プレーヤーか TV モニター使用、1.5~2 倍の時間延長) ・強音放送 (別室でボリュームアップ) 【上記以外の難聴者】 ・座席配置 (スピーカーの近く)	[ 選択肢 ] ・スピーカーの近くの座席 ・イヤホン受験 (自分のイヤホンあるいはヘッドホンを持ち込み、音量を調節) ・リーディングセクションのみ受験	[ 選択肢 ] ・免除 ・口話通訳者の配置
手続き	【個人申込】(本会場受験) 受験申込時に特別措置申請書を提出 【団体申込】(本会場受験・準会場受験) 受験申込時に、所属団体の申込責任者が特別措置申請書を提出 ※障害等級、申請する措置、補聴器等の機器の持参使用について記入する ※座席配置を希望する場合は、障害の程度と「右耳失聴、左耳難聴」等のコメントを記入する ※申込毎に申請が必要	初回、および前回の受験から2年以上経過している場合は、受験申込時に以下の手続きが必要 (2年以内の再受験は専用フォームから手続き) 【IPテスト*1】： 特別受験対応依頼書に、所属団体の担当者が入し提出 (診断書などの特別な証明書は不要) 【公開テスト*2】： プライオリティサポート依頼書とともに証明書類のコピー (以下から1点) を郵送 ・身体障害者手帳 ・医師の診断書 (受験日から1年以内に発行されたもの) ※聴力以外の状況で特別措置を依頼する場合は、語音明瞭度など聴こえ方について診断書に明記する	窓口：ETS Disability Services ①通常申込書と、障害者配慮申込書 (Testing Accommodations Request Form)、および Certification of Eligibility : Accommodations History (場合により医師の診断書) を提出 ※補聴器、人工内耳以外の機器*3や、他の希望措置がある場合は申込フォームに記入する ②配慮申込みが受理された後、受験地域の Regional Registration Center に予約手配を依頼する (オンライン予約は配慮付き受験の対象外となるため)
結果	・「合格」「不合格」を通知 ・個人成績表、合格証書、合格証明書の表記は通常受験の場合と同じ	リーディングセクションのみ受験した場合は、リスニングセクションおよびトータルスコアは、「N/A」(Not Applicable)と記載される ※インターネット表示上は、リスニングの最低スコア (5点) が表示される	受験したセクションのスコアのみが表示される
その他	二次試験 (面接試験, 1級~3級) について： [ 選択肢 ] 【障害程度等級6級以上】 ・筆談 (指示や質問はフラッシュカードで提示、Q&A の回答を英文で書いて答える) ・フラッシュカード+口話 (指示や質問はフラッシュカードで提示され、Q&A の回答を口頭で行う) ※いずれの場合も、音読は本人の発話で行う 【上記以外の難聴者】 ・大声 (通常通りの面接で、面接委員からの指示や質問を大きめの声で行う)	その他の配慮については、「プライオリティサポート係」に相談	その他の配慮について： [ 選択肢 ] ・スピーキングの免除 ・スピーキングの音声部分の書記化 ・ライティングの音声部分の書記化 ・音声指示部分の手話通訳者配置 ・音声指示部分の口話通訳者配置 ・テスト時間の延長 ・休憩時間の延長、追加

<表中の語句について>

- \*1. IP テスト：IP は「Institution Program」(団体特別受験制度) の略。試験申込をする企業・団体・学校が試験会場と日程を設定する。
- \*2. 公開テスト：(一財) 国際ビジネスコミュニケーション協会が設定した日程から受験日と受験地を選択する。個人受験・団体一括受験どちらも可。
- \*3. 例) M-リンク：音響装置用磁気誘導コイル。フック・サポートにより耳介にフィットした状態で、T-コイル内臓の補聴器 (耳かけ式・耳穴式) に直接音楽・音声を伝送する。IC レコーダーを使用したリスニング試験にも活用できる。

## <参考文献>

1. 松藤みどり、奈良初美.「英語リスニング試験に関する一考察」筑波技術短期大学テクノレポート.1995;Vol.2:p.73-78.  
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/handle/10460/284>
2. 松藤みどり.「英検聴覚障害者特別措置を獲得するまで」筑波技術短期大学テクノレポート.1996;Vol.3:p.201-206.  
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/handle/10460/300>
3. 松藤みどり.「英語聴解問題における聴覚障害者に対する措置その2 実用英語技能検定の場合」筑波技術大学テクノレポート.2001;Vol. 8(1):p.87-91.  
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/handle/10460/522>
4. 太田智加子、松藤みどり.「聴覚/視覚障害を持つ学生に対する TOEIC 対策」筑波技術大学テクノレポート.2012;Vol.19(2): p.12-16. <http://hdl.handle.net/10460/1071>
5. 細野昌子、須藤正彦、大杉豊、松藤みどり.「一般大学に学ぶ聴覚障害者の情報保障に関するアンケート調査ー英語科目の受講状況と読解(Reading)における情報保障の実態ー」筑波技術大学テクノレポート. 2012; Vol. 20(1): p.1-6.  
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/handle/10460/1126>
6. 細野昌子、須藤正彦、大杉豊、松藤みどり.「一般大学に学ぶ聴覚障害者の情報保障に関するアンケート調査ー『読解』と『英会話』における情報保障の比較とその有効性ー」筑波技術大学テクノレポート. 2013; Vol. 21(1): p.90-96.  
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/visual/handle/10460/1201>
7. 細野昌子、須藤正彦、大杉豊、松藤みどり.「一般大学に学ぶ聴覚障害者の情報保障に関するアンケート調査ー英語科目の支援体制および学生の自主性からみた選択肢の広がりー」筑波技術大学テクノレポート. 2014; Vol. 22(1): p.27-34.  
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/handle/10460/1271>

執筆者： 筑波技術大学 細野昌子

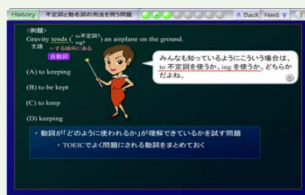
(「障害者高等教育拠点」事業 語学教育に関するアカデミック・アドバイザー)

## 英語教育コンテンツのご案内

「障害者高等教育拠点」では、英語の技能試験に関連して聴覚障害学生の学習にお役立ていただけるよう、下記のコンテンツを作成しております(いずれも事前登録制)。

### 「聴覚障害者対応 TOEIC 対策 Web 講座」

400点~600点台の問題と解説からなる、reading セクションの e-learning 教材です。解説が分からなかった時にはメールで質問が可能な、インタラクティブなシステムです。



### 「聴覚障害学生のための留学準備 Web 講座」

留学経験のある方が自身の経験を踏まえて、アメリカに留学する際に必要な知識や知っておくと良い情報を手話でレクチャーします。  
※TOEFL®受験について解説あり



全国の高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生および支援・指導担当教職員の皆さまに無償で提供しておりますので、ぜひご活用ください。利用をご希望の際は、下記問合せ先までご連絡ください。

※TOEIC®および TOEFL®は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

聴覚障害学生のための語学関連 Tips

発行 国立大学法人 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

<本コンテンツに関する問い合わせ先>

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター「障害者高等教育拠点」事務局  
E-mail: [krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp](mailto:krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp) URL: <http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/kyoten/html>

本センターは、文部科学省より教育関係共同利用拠点として認定を受けています。本シートは、「障害者高等教育拠点」事業・「語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供」の取組の一環として作成したものです。本シートの内容の無断複写・転載を禁じます。